

禁酒の神様

木の宮さん

平成六年十二月五日号

富士東高校の西側に小高い森が見えます。これが「木の宮神社」です。この神様は、厄よけの神様として知られ、禁酒の神様でもあります。

今回は、社中（木の宮神社を守っている者と集まった有志）総代の荒川一郎さんから、木の宮さんにまつわるお話を伺いました。

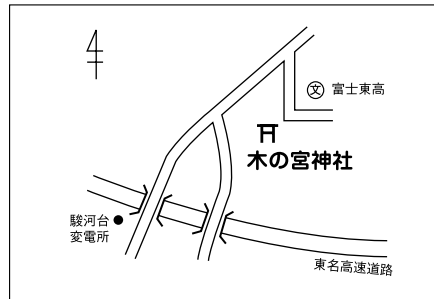
木の宮さんは、神々の中でも美男子で利口者でしたが、どうも働くのが嫌いで毎日大酒を飲んでいました。

ある日のこと、

木の宮さんは悪友を誘い、晩秋の空にくっきり浮かぶ新雪の富士を仰ぎ、狩りに行きました。結果は上々で、その夜の酒宴は、いつになく盛んでした。

何時間か過ぎ、

酔いつぶれた木の宮さんの耳元をくすぐる者がいました。うるさいので払いのけたのですが、また耳をつつきます。木の宮さんが怒ってはね起きると、足元に一羽のホオジロがいることに気づきました。さらに周りを見渡すと、一面が火の海になっています。木の宮さんたちの不注意な残り火で、森や草原は真っ赤な火に包まれていきました。



木の宮神社



命からがら逃げる事ができた木の宮さんは、自分を助けてくれた小鳥のことを思い出し、涙を流しました。それ以来、木の宮さんは酒も狩りもやめ、多くの人たちに慕われる神様になりました。やがて森にも緑が戻り、木の宮神社の周辺は、小鳥たちの楽園になりました。

荒川一郎さん（今泉）

この話から木の宮さんは禁酒の神様とかわれていますが、実は「杉ほこわけの命」という植林の神様なんです。昔、このあたりは野火（山火事）が多かったので、せっかく育った木が燃えてしまうこともありました。それに神社の森に鳥が多いのも事実。神社の周辺は、すばらしい自然に恵まれているからです。つまり、この話は、自然を大事に守りなさいという教えなんだと思います。